おぼろタオル株式会社

三重県津市

生産性向上　需要獲得　担い手確保　ものづくり　サービス

ポイント 「一度使ったら手放せない」という顧客の評価が喜び。創意工夫と信頼の百余年

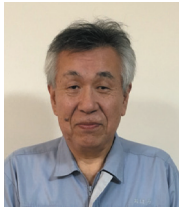
○地域の特色と知的資産の融合によるオンリーワン商品の創出。「伊勢古式着物文様」と「おぼろ百年の極」が誕生

○客観的評価による開発商品の差別化。特許出願による革新性、第三者機関認証による安全安心のものづくり

○「人に優しく、環境を配慮したものづくり」を実践。個人の事情が尊重され、仕事と生活が両立できる職場

企業基本情報

所在地	三重県津市上浜町３丁目 155 番地
電話 /FAX	059-227-3281/059-228-8392
URL	http://www.oboro-towel.co.jp/
代表者	代表取締役社長 加藤　勘次
設立（創業）	1918 年（1908 年）
資本金	2,500 万円
従業員数	61 人



会社概要

1908 年、日本画家考案の「おぼろ染技法（特許取得）」を柱にタオル製造会社を創業。織・加工・縫製の一貫生産体制を確立。細番手の“肌触りが良く、軽くて、絞りやすく、抜群の吸水性”の特長で愛用される。2015 年に「新おぼろ染」の特許取得。その後、伊勢型紙とのコラボの「伊勢古式着物文様」が、2016 年の伊勢志摩サミットで使用され、三重グッドデザインに選ばれる。2017 年、軽量且つ吸水速乾に富む『おぼろ百年の極』(特許出願) を製品化。

会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

特長技術と地域の伝統技術等との融合によるオンリーワン商品

「伊勢古式着物文様」「おぼろ百年の極」などのオンリーワン製品は鈴鹿市の企業の協力の下、実現した。地域の特色を活かした高付加価値化の成果である。また、芍薬を活用する産官学の取組では、“芍薬ビジネス研究会”に加わり、活動の一つとして、戦略産業雇用創造プロジェクト「自動車内装部品（木綿）研究会」にて、松阪木綿及び伊勢木綿の芍薬抗菌加工開発を担当する。

オンリーワン商品

特許出願により商品の革新性を裏付け、第三者機関が品質保証

国内数少ない“織、加工、縫製”一貫生産体制とコア技術（おぼろ染め、ガーゼ織）を軸に置く商品開発。他産地と異なり、未晒の 40 番手以上の細い糸を使いが特長であるが、更に細い 80 番手のタオル（特許出願）を試作中。特許で革新性を裏付け、エコテックス及び日本アトピー協会推奨品等の第三者機関認証で、製品の安全・安心を保証する。また、京都工芸繊維大学の「やわらかさデザイン研究室」と、同社製品特長の“肌触り”の数値化に取り組む。

特許証・第三者機関認証

経営理念に掲げる「人に優しく、環境を配慮したものづくり」

問屋に依存する下請け的な業態であったが、自らが企画提案・販売する方向へと戻ることで、社員の行動と意識が変わる。社員の後押しの下、この方向に事業運営の舵をきる。2013 年度から、新卒者を 2 名程度ずつ採用。地元雇用で解雇はしない。また、社員を大切に出来るように、ワークシェアリングも導入している。「CO_2」移動量の少ない一貫生産体制を環境経営のメリットとし、ボイラー及び乾燥機等のガス化等で「CO_2」の削減に取り組む。

三重のおもてなし経営企業選